

ぼくが学んだやさしい気持ち

小 四

みなさんは、病気で体が不自由な人を知っていますか。ぼくのお姉ちゃんは、足の病気とたたかっています。足が動きにくくても、毎日、笑顔で学校に通っています。ぼくのお姉ちゃんは、生まれつき両足の長さがちがいます。そのため、足の中に、鉄のぼうが四本も入っています。それでもお姉ちゃんは、重いかばんをかたにせおって、遠くの学校に通っています。

お姉ちゃんは、
「今日は、足がいたいな。」
と言うことがあります。

「どうしたの。」
と、ぼくが聞くと、
「体育で走ったからかな。」
と、少しつらそうにすることもありますが、それでも休まず学校に通っています。

お姉ちゃんは片方の足が短いので、くつの高さが左右でちがいます。見た目もふつうのくつとはちがうので、周りの人からちらちらと見られることがあります。ぼくは、それがくやしいです。ようち園生や小学生のとき、
「どうしてみんなのくつとちがうの。」
とか、

「変わったくつをはいているね。」
と言われたり、じっと見られたりすることがあったそうです。そんなとき、

お姉ちゃんは、

「みんなと同じだよ。少しだけ歩きにくいから、歩きやすいくつにしているだけ。」

と、笑顔で相手の子に伝えていたそうです。自分の考えをしっかりと伝えられるお姉ちゃんを、ぼくは強い人だと思いました。

お姉ちゃんは不自由なところがあるけれど、よりよく過ごそうとがんばっています。でも、不自由ではない人の中には、自分とちがう人がいると変な目で見てしまう人もいます。手をかすことができるのに、じつさいに助けている人はあまりいません。知らないうちに、人と少しちがうところがあると、差別していたのかもしれない。

ません。みんなが笑顔で楽しく生活するために、助けられることは助け合いい、自分とちがうからということ、変な目で見ないということが大切だと思います。

お姉ちゃんは、ぼくが生まれたときから、ぼくのことをとてもかわいがってくれたそうです。思い出すと、いろいろなときのやさしいお姉ちゃんの顔がうかびます。宿題をしていて、「お姉ちゃん、これ教えて。」

と、ぼくが聞くと、他のことをしていても、すぐに教えてくれます。たくさん遊んでもらい、たくさん教えてもらいました。

そんなぼくも四年生になりました。少しずつできることも増えました。こ

れからは、ぼくもお姉ちゃんを助けて
いこうと思っっています。
他にも、ぼくがお姉ちゃんを強い人
だと思うところがあります。それは、
何度手じゅつをしていても、いつも笑
顔でせつしてくるところです。お姉
ちゃんの病院には、全国からいろ
んな病気とたたかっている子が集まっ
てきます。病院での生活が楽しくなるよ
うな行事があつたり、勉強を教えてく
れる先生がいたりします。ぼくのお姉
ちゃんや、病気とたたかい、つらい思
いをして、いるたくさんのお姉ちゃん
を、ささえてくれています。お姉ちゃん
の笑顔は、ささえてくれる人たちの思
いもつまっているのかなと考えました。
世界中には、ぼくの知らないたくさ

んの病気やしよう害があります。ぼく
にできることは何かを考えました。み
んな同じ、みんなちがつてみんない
という心で、特別な目で見ないこと。
そしてこまったことがあつたら、勇気
を出して手伝うこと。自分の周りの人
たちが、笑顔いっぱい毎日を過ごす
ことができると、まず自分から行
動していきます。ぼくにこのことを気
付かせてくれたのは、ぼくの大好きな
お姉ちゃんです。お姉ちゃんが教えて
くれた、やさしい気持ちをわすれない
で、毎日を過ごしていきたいです。
お姉ちゃん、ぼくにやさしい気持ち
を教えてくれて、ありがとう。これか
らもうよろしくね。